

平成20年度 応用理学部会 見学会

テーマ：(仮) 仙台周辺地形学散策 ～災害史と防災～

主旨：日本の太平洋岸の都市は、いずれも政治経済の管理中枢機能、人口、資産のほかにも、重要な施設が集中していて、仙台も東京の比ではないとはいえ類似した構成になっている。したがって、地震被害もそれに応じた規模となり、多種多様な不安が予想される。仙台は、城下町づくりが始まったばかりの1611年、大きな津波を経験している。岩沼では、阿武隈川の河口から約10kmもさかのぼるといふ規模であったし、名取川河口から約5km上流の今泉では50人、領内全体では1783人が溺死したほかに家屋が流出したとの記録がある。これは、浜堤背後の低地に大量の海水が流れ込んだもので、荒浜、下飯田、三本塚などは、その後長い間、荒地になってしまったといわれている。

このような低地での地震災害は、地盤の脆弱性に由来するわけではあるが、約6000年前には入り江であった地域が広く、主に河川によって運ばれた土砂で埋積されて陸化したところである。このような土地条件に対して、われわれは投資と技術によって多角的に利用してきた。地盤の物性だけでなく、このような氷河性海面変動と呼ばれる海面高度の変動の影響を強く受けてきた平野の地形や地質の成り立ち、人為による改変、過去の災害を知ることは、安全安心な環境を維持していくためにも都市住民や伝達する側の専門家にも必須であると思われる。

自然災害の歴史は、市史や県史で年表が編纂されているが相互に合致しないことがあり、東北地方の被害地震の諸相を概観できるのは江戸時代以降であるという意見もあるくらいである。いずれにしても文献であることから物証として確認できるのは少ない。しかし、80年代後半に入って日本列島のさまざまな地域で、考古学的遺跡発掘調査により、過去の地震による断層や地割れ、地すべり、液状化現象の痕跡が確認されている。遺跡には当時の生活用具が残されていることから、これらの年代を基準にして地震の年代を理解することができる。これらの「地震考古学」の研究によって、文字記録の空白が埋まったり、その先までの地盤災害を把握できるようになった。

自分たちの住んでいる、活動している地域で起きた地震を知ることは、将来の地震に備える一歩であり、それを伝えるのが防災・減災につながるのではないかと想い、身近で、最近の歴史に対する理解を豊かにするための散歩に出かけたいと思う。

今回は、東北学院大学教養学部地域構想学科の松本秀明教授の案内で沖積低地の軟弱地盤地帯形成の地形形成史的な話題や地形変化、砂浜海岸の侵食実態、縄文時代以降の過去の大洪水の痕跡（津波）の検出などについて興味深い紹介をいただきます。

平成 20 年度 応用理学部会現地見学会 工程表(案)

テーマ：(仮) 仙台周辺地形学散策 ～災害史と海岸浸食～

集合：平成 20 年 7 月 28 日 (月) 9 : 00

場所：地下鉄泉中央駅ペDESTリアンデッキ駅側

行 程

車に分乗・移動：9 : 10 発 東北学院大学泉キャンパス

(泉中央駅出発時に松本先生に連絡)

見学地の概要：9 : 40～10 : 50 松本先生からお話をいただきます。(学院大 4 号館 1 F)

見学地へ出発：11 : 00

見学地①^{くつかた}杓形遺跡：11 : 30～12 : 30・・・2000 年前と 1000 年前の津波堆積物

昼食 (だてもん市場) 13 : 00～13 : 45

見学地②岩沼市蒲崎海岸 14 : 15～15 : 15・・・海岸浸食と対策

泉キャンパス (解散) : 16 : 15

資料は松本先生が 30 部準備すること

平成 20 年 7 月 14 日

関係各位

(社)日本技術士会東北支部
応用理学部会長 滝田良基

平成 20 年度 応用理学会 現地見学会 開催のご案内

日頃の応用理学部会の活動に対する皆様のご支援ご協力大変ありがとうございます。例年現地見学会を開催し、技術と知識の研鑽および交流を深める機会にしてまいりました。昨年は早池峰山の周辺で植生態と地質の関係を研修いたしました。

今回は、東北学院大学教養学部地域構想学科の松本秀明教授の案内で沖積低地の軟弱地盤地帯形成の地形形成史的な話題や地形変化、砂浜海岸の侵食実態、縄文時代以降の過去の大洪水の痕跡（津波）の検出などについて興味深い紹介をいただきます。

下記のとおり現地見学会を開催致しますので、奮って参加されますようご案内申し上げます。

記

テーマ：(仮) 仙台周辺地形学散策 ～災害史と防災～

沖積層（沖積平野）の形成、津波堆積物、海岸侵食

1. 日 時：平成 20 年 7 月 28 日（月）9：00

地下鉄泉中央駅、泉区役所前集合

16 時ころ同所解散予定

2. 場 所：仙台平野 沓形遺跡 蒲崎海岸

津波堆積物が見える沓形遺跡（若林区荒井）および岩沼市
蒲崎付近（阿武隈側河口北側一帯）

3. 講演・案内：東北学院大学 教養学部 地域構想学科 松本秀明教授

4. 参加費：会員・非会員 2,000 円

当日申し受けさせていただきます。

5. 申し込み方法：参加ご希望の方は下記申込書に記入の上、事務局まで FAX または E-mail で申し込み下さい。

6. 締め切り：平成 20 年 7 月 25 日（金）

但し、先着 25 名になり次第締め切らせて頂きますので、あらかじめご了承下さい。

い。

7. その他

①昼食：各自でお願いします（場所：だてもん市場）

②準備：長くつ（ヘルメットは不要）。

③CPD: 3.5 h 予定。

8. 申込み及び問い合わせ先

（社）日本技術士会 東北支部事務局

Tel 022-723-3755 Fax 022-723-3812

[E-mail : tohokugijutushi@nifty.com](mailto:tohokugijutushi@nifty.com)

以上

7/28 応用理学部会 現地見学会 申込書

氏名：

部門：

勤務先：

連絡先：
